

# 自分の思いや考えを豊かに表現し、伝え合う力を高める指導の工夫

【吉川市教育委員会】

1 学校、学年、教科 小学校、3年・4年・6年、国語

2 ねらい

相手や目的に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

3 取組内容

(1) 3年 「ちいちゃんのかげおくり」(物語) あまん きみこ

「話すこと・聞くこと」の目標(学習指導要領より)

- ・相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

## ①話す能力を身に付けさせる。

- ・3年生の段階では、自分の思いや考えをわかりやすく伝えるのはむずかしい。そこで、書くことを通し、自分の考えをまとめさせた。

### ○ひとり読みの学習活動【書き込み】

- ・その時間に学習する文章の範囲に対して、自分で読みすすめていくことで、難語句を調べたり、文中の言葉や文章から、わかったこと、考えたこと、疑問に思うこと、登場人物の思いなどを書きこませた。  
——→ そうすることにより、教材文を丁寧に読み、自分から教材文に深く向き合っ読もうとする意識が生まれ、自分なりに想像する事ができる。
- ・書き込みから生じた考えは、必ず、本文に書かれていることから想像させ、わけをしっかりと話せるようにする。

## ②話し合う能力を身に付けさせる。

- ・自分の考えとそのわけを話したら、友達の考えを聞いたり、自分の考えを振りかえりながら、登場人物の思いや情景の違いに気づかせるなど、読みを深めていくようにした。

### ○発言方法の工夫

- ・話し合いの反応の仕方や読み深めていく話し合いの手立てを教室に掲示し、児童の発表の羅列に終わらないように、児童相互の考えや思いがつながるように話し方を身に付けさせた。

《書き込み記号》

① わかったこと
② 疑問
③ 思ったこと
④ 登場人物の気持ち
⑤ 様子

《話し合いの反応の仕方》

・つけたし
・ほかにあります
・さんせい
・ほんたい
・もう一度言ってください

《読み深めていく話し合いの手立て》

前向き発言
・「〜のところ、〜の気持ちについて言います。」
・「〇〇さんと同じようなこと言います。」
関連発言
・「同じようなことで」
・「少しちがって」
・「それに対して」

(2) 4年 「ごんぎつね」(物語) 新美 南吉

「話すこと・聞くこと」の目標(学習指導要領より) 3年生と同じ

## ①話す能力を身に付けさせる。

- ・4年生では3年生に引き続き、自分の思いや考えを分かりやすく伝える手立てとして、ひとり読みの学習活動を身に付けさせたり、深く物語を理解させるために音読を繰り返し行った。そして、声の大きさや発音、気持ちを込めて読むことに気づいて読めるようになると、児童は「ごんぎつね」の内容を

ほぼ理解できるようになった。

——> そうすることにより、集団の中でより主体的な活動が期待でき、友達の考えもくわしく知ろうと話しをよく聞くようになる。

## ②話し合う能力を身につけさせる。

- ・お互いに考えの共通点や相違点を考えながら、話したり、聞いたりして、ごとと兵十の心情にせまる話し合いをしていく

### ○発言方法の工夫

- ・教師と児童の1対1のやり取りでなく、児童相互の話し合いができるようにした。  
例えばAの発言に対し共感したり、違いを感じたりした児童は、Aの発言の後に挙手し、Aがその児童を指名するという方法である。どの児童も発言内容をよく聞き、自分の考えを話すということをしながらか、話し合いを深めていく。教師は発言させるだけにならないよう、話し合いの方向づけや評価をし、まとめをしていく。

## (3) 「やまなし」(物語) 宮沢 賢治

「話すこと・聞くこと」の目標(学習指導要領より)

- ・目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てるとある。

### ①話す能力を身に付けさせる。

#### ○ひとり学びの学習活動

- ・音読、視写、ワードバンク(意味調べ)、書き込み、書き出しなどの学習活動に取り組みさせた。これらは朝の「基礎基本」の時間や宿題、自主学習などで行った。

——> そうすることにより、やまなしの徹底した対比、比喩、擬声語、擬態語、色彩語、造語による描写を知り、児童が自分なりの自由な想像を広げ、意欲をもって互いに伝え合うことができる。

#### ○学び合いの学習活動

- ・3・4年生同様、「やまなし」をすらすら読めなければ自分の考えはもてないので、多様な音読練習を行った。(リレー読み、追いかけて読み、交代読み、各自読み)
- ・互いに自分の考えを伝え合うことで、友達のちがった感じ方に出会い、思考を広げ、深めていく。また、友達の話をよく聞き、根拠に基づいた自分の考えを相手に、わかりやすく伝える発表の仕方も身につけていく。

### ②話し合う能力を身につけさせる。

- ・根拠を持って話したり、考えが変わったときはその理由をはっきり言える話し合いをする。

#### ○発言方法の工夫

- ・「五月」と「十二月」の対比について話し合う時に、例えばBが『「五月」は日光で、「十二月」は月光です。根拠は、「五月」を読むと、明るく暖かい感じます。「十二月」を読むと、暗く寒い感じがするからです。』と話すとCが立ち、『B君と同じで、私も日光と月光です。根拠は日光の黄金とラムネのびんの月光と書いてあるので、きらきらした色とラムネの青い色を想像しました。』このように友達の話を受けて自分の考えを指名なしで発言する。大勢の児童が発言したいときには、譲り合って発言する。何回か行っていくうちにスムーズに発言できるようになってくる。教師は話し合いを聞き、確認や評価やまとめを行う。

## 4 成果と課題

「自分の考えを豊かに表現し、伝え合う力の育成」をテーマに3年間取り組んできた。授業を行った学年はちがっていても、基本となるひとり学びは、伝え合う力を育てるのに大切なものであることがわかった。これからも続けていきたいと思う。また、発言方法を学年に応じて行ったが6年生で行った「指名なし」は学級の和を感じることもできた。しかし話し合いのまとめ方については課題が残った。